

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.160

発行:平成 28 年 6 月 1 日

講習会のご案内 (お申込み・受付は前月の 20 日から)

「フラワーハンギングバスケットづくり」◎ ¥2,500

とき 平成 28 年 6 月 5 (日)

午後 1:30~3:30 定員各 20 名

講師 フラワーマスター 山本 裕美さん



「庭木のせん定」-ツツジ類など花木-

とき 平成 28 年 6 月 26 日 (日)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 旭川公園緑地協会職員

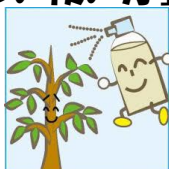


「植物の病気と害虫と農薬の正しい使い方」

とき 平成 28 年 7 月 3 日 (日)

午後 1:30~3:30 定員 30 名

講師 緑のセンター 相談員



「ハーブの寄せ植えとハーブティ」◎ ¥1,000

とき 平成 28 年 7 月 18 日 (祝・月)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 緑のセンター 相談員



☆連続講座(連続参加できる方)☆

◎「プランターで育てるイチゴ栽培講座」

6月4日(土)「イチゴの育て方の基本」全3回 20 名

7月9日(土)「ランナー(小苗)の鉢上げ」 ¥2,000

8月20日(土)「プランターに苗の定植」13:30~15:30

◎「こどもと作る多肉植物の鉢植え講座」

7月24日(日)「鉢にお絵描き」全3回 ¥1,000

7月27日(水)「鉢カバー作り」小学生・保護者 10 組

7月30日(土)「土作りと苗の植込み」9:30~11:30



花フェスタ2016

6月8日~12日(日)

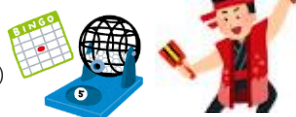
会場:大雪アリーナ

【花と緑の相談コーナー】

10時~16時

【緑のセンターまつり 2016】8月7日(日) 10時~16時

- ・素敵な苗木をプレゼントします!!
- ・楽しいイベント…ビンゴゲーム、餅つき大会、神楽岡太鼓、よさこいソーラン
- ・農産物市、園芸市(即売あり)
- ・展示会…洋ラン、ミニ盆栽、山野草、石花盆景、押し花(即売あり)



展示会の案内 (初日は午後から最終日は4時まで)

「温室の植物写真展」6月18日~7月18日

「押し花展」8月6日~8月28日



【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日です(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です (")



♪くつろぎカフェ♪

ハーブティの効用について

7月15日~18日

13:00~15:00

講師:建部久美子さん

茶葉代:100円



〈園芸の基礎知識〉 植物の茎の内部構造と働き

～ 茎の成長と分枝の発生 ～

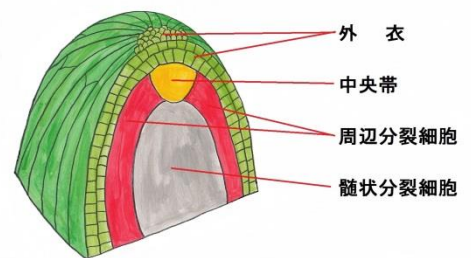
一般的に植物の体は根や茎の先端で新たな部分を形成し成長していきます。今回は茎の成長と分枝について学習します。

■茎の成長点と分裂細胞

茎の「成長点」とは、新しく細胞を作る「茎頂分裂組織(又はシュート頂分裂組織)」をいいます。この分裂組織が活発な細胞分裂を行い、多くの小さな分裂細胞が作られます。この小さな細胞がそれぞれ肥大することにより先へと伸びていき成長します。維管束植物では、茎頂を構成する細胞の性質に基づき細胞組織帯を細区分することができます。

- ・**外衣**…茎頂の外側を覆う1層から複数層の細胞層を呼びます。
- ・**中央帯**…茎頂の最も先端の区域で、細胞はやや大きい、あまり細胞分裂しない。
- ・**髄状分裂組織**…中央帯の下にあり周辺分裂組織に囲まれた区域で、分裂は中央帯と周辺分裂組織の間です。
- ・**周辺分裂組織**…中央帯と髄状分裂組織を取り囲む区域で、細胞は小さく最もよく分裂します。葉の形成もここで行われます。

茎頂分裂組織模式図



■分枝、シュート、腋芽

「分枝」とは植物の茎が複数に分かれることをいい、「枝分かれ」ともいいます。維管束植物では分枝形態で「二又分枝」、「単軸分枝」、「仮軸分枝」に分けることができます。

シュートとは茎とその上に出来る葉をまとめて1単位とした呼び名で「苗条」とも呼びます。

茎の先端に出来る芽を「頂芽」といい、茎の先端以外に出来る芽のことを「腋芽」と呼び、一般に葉のつけ根の上に出来ることが多いです。「脇芽」とも呼びます。

(参考資料: 誠文堂新光社「園芸用語事典」、八坂書房「図説植物用語事典」、学研「植物の生態図鑑」ほか)

緑の相談 QアンドA (34)

黄色い小花が咲いた這う種類の花で、園芸店で名前も聞いたのですが忘れてしまいました。名前と簡単な育て方などを教えてください。

ご質問の植物は、グランドカバー材料として広く使われるヨーロッパ原産でサクラソウ科オカトラノオ属の「リシマキア・ヌンムラリア」ではないかと思います。和名では「ヨウシュコナスビ」といい、日本に自生する「コナスビ」や「オカトラノオ」と同じ仲間です。



リシマキア・ヌンムラリアは、ほふく性の多年草で、耐寒性・耐暑性が強く、旭川でも屋外で簡単に育てることができます。春に風通しの良いやや湿り気のある土壌に植えます。生育旺盛で短期間で広がり全体を覆いますが、夏に蒸れて枯れやすいので注意が必要で、2～3年に一度は植替えなどを行ってください。花期が比較的長いことから、グランドカバー材のほかハンギングバスケットや花壇の縁取りなどに利用されます。また、最近では水草としても利用されています。

(参考資料: 小学館「園芸植物大事典」、誠文堂新光社「グランドカバープランツ～地被植物による緑化ハンドブック～」ほか)

植物の病害虫

その160 「ゴミムシ類」

1 寄生しやすい植物

漿果^{しょうか}の果肉(トマト、ブドウ、ウメ、ブルーベリー、キウイフルーツ)、多汁質^{かいこん}の塊根(ダイコン)、ゴミムシの種類により、イネ科やアブラナ科などの種子^{えさ}を餌とするものがあります。



ゴミムシの成虫とダイコンの被害

2 被害

ゴミムシ類は、一般には農作物の各種害虫^{ほしよく}の捕食性害虫の天敵として知られています。しかし、近年渡島や後志管内のダイコン栽培地帯で、収穫されたダイコンの根部に直径 10mm 前後の円形の陥没痕^{かんぼつこん}ができ、商品価値が全く失われる被害が問題となりました。道南及び中央農業試験場で検討した結果、ゴミムシ類による被害と判断されました。加害種は特定されていませんでしたが、その後の調査でキンナガゴミムシ、マルガタゴミムシとトックリナガゴミムシの3種類が主要な加害種であることが判明しました。

ゴミムシ類の被害は、渡島管内七飯では被害株率 50～70%に達する圃場もみられ、特にトンネル栽培やマルチ栽培で被害が目立つ傾向にあります。また、空知および十勝管内でも同様の被害が認められていることから、今後全道各地に拡大する恐れがあります。作物に使える農薬はありません。

3 生態

ゴミムシはオサムシ科に属する昆虫の総称で、日本では 1000 種以上が知られています。大きさも数ミリから数センチまで様々、黒色のものが多く、緑や藍^{あい}の金属光沢を持つ種類もあり多彩です。湿地、樹上、海浜、洞くつ、草地、河原など生息環境^{せいそくかんきやう}が特有の種類も多くいます。多くは地表を徘徊しながら生活し、翅が退化して飛べなくなった種類もあります。多くのゴミムシは人間の生活とは無縁ですが、防御のために毒液を放つもの(オサムシ類)、家屋周辺に生息して照明に飛来したり、徘徊して家屋に侵入するもの(ゴモクムシ類、その他ゴミムシ類)、強烈な悪臭を放つもの(ホソクビゴミムシ類)などが不快害虫として挙げられています。

4 防除法

日頃から家屋の周辺の雑草は除草し、落葉などが溜まっていたら清掃し、風通しを良くしておきます。庭や床下に暗くじめじめした環境をつくらないようにすることが大事です。

屋内に虫が侵入する場合には、建物の周りに不快害虫用の粒剤を帯状に散布しておきます。屋内への侵入口には不快害虫用エアゾールを吹きつけておきます。

春～秋にかけては、網戸やサッシなどによって侵入を防ぎます。外壁や窓ガラス防虫忌避効果のあるエアゾールまたはスプレーを吹きつけておきます。

屋内に侵入した場合には、直接、素手でさわらないように注意して屋外に摘み出するか、市販の不快害虫用エアゾールを吹きつけて殺虫します。ゴキブリ捕獲器を置いておけばよく捕まります。虫には素手で触らないようにして下さい。液や臭いが付いた時には早めに石鹼をつけてよく洗い流します。

ゼラニウムの切り戻しと植え替え

フウロソウ科 ペラルゴニウム属 南アフリカ・オーストラリア原産 多年草

ゼラニウムは、ボール状に咲くポリュームのある花と、個性的な葉が魅力的です。園芸店では一年中いろいろな種類のゼラニウムが並んでいますが、世界に約 280 種類ほどもある仲間はずべて、①イギリスで作られた四季咲きの「ゼラニウム」②1 年草の「ペラルゴニウム」③茎が這うように伸びる「アイビーゼラニウム」④原種で葉に香りをもつ「ハーブゼラニウム」の4つに分類されています。

ゼラニウムは日当たりを好み、乾燥にも比較的つよいので、水やりは乾燥気味に育てます。花を長く楽しむためには生育期間中に液肥を7～10 日置きに一回程度与え続けます。生育適温は 12～20℃なので暑さは苦手ですが、冬期間も開花に必要な温度と日照が確保できれば旭川でも室内で花を楽しむことができます。

鉢の中で根詰まりを起こすと、次第に花付きが悪くなり、茎や枝が間延びして姿が乱れ、下葉も落ちて見苦しくなってきます。そんな場合は、本格的な夏が始まる前の6～7月、もしくは9～10 月頃を目安に、株の根元から 1/3 くらいを残して切り戻し、赤玉土7:腐葉土3の割合で混合した排水と保水性の良い用土を使って、ひとまわり大きな鉢に植え替えます。

また、ゼラニウムを挿し木で増やすには、切り戻してできた枝を挿し穂に利用します。

挿し穂にする枝は比較的太くて、木質化していない新しい枝を選び、先端からおよそ8cm～10 cmほどの長さに切り落とします。このとき、節の真下で切り落とし、下葉を取り除き、先端に開いた葉を3枚ほど残しておきます。挿し穂の切り口はカッターで切りなおし、半日陰の涼しい場所で 1 日ほど陰干しすると腐りにくく失敗も少なくなります。挿し穂が準備できたら、赤玉土(小粒)かパーミキュライトの単用土にゼラニウムの挿し穂を挿し、このとき十分に水を与えておきます。その後、発根が始まるまでの2～3週間は、やや乾かし気味に管理するのが、上手な挿し木のポイントです。



展示室の植物 (67)

ホヤ ムルティフロラ (和名:なし、 別名:シューティングスター・ひこ星)

学名:Hoya Multiflora ガガイモ科 ホヤ属

流れ星のようなツボミから破魔矢のような花が咲くホヤ・ムルティフロラは、九州や沖縄などにも自生しサクラランの名で親しまれている「カルノサ(Hoya carnos)」と同じ仲間です。ホヤ属の仲間はアジア東部からオーストラリアに約 200 種が分布するそうですが、カルノサがつる性で茎から気根を出して樹木の幹や岩上を這って育つのに対して、ムルティフロラはマレーシア原産で茎は立性で低木状となります。

葉は常緑・多肉の革質で対生し、花は多肉質で光沢があり、ロウ細工のようです。矢の先端部分は白く、矢羽は薄い黄色。多いときは花柄の付け根から 10 数本の矢が飛び出すように咲きます。どれが「花びら」でどれが「シベ」かわかりますか？

